滝川高校ＳＳＨ通信

発行：2019 年 9 月 27 日　　SSH・理数科部　第１７号





SSH 第1学年　理数科　校外研修
「宮島沼巡検　野外実習」



９月２５日（水）～２６日(木)

9月25日(水)

　理数科１年生は SSH 宮島沼フィールド実習です。まずは酪農学園大学、吉田磨先生のご指導のもと、環境調査実習です。水質環境、温室効果ガスのサンプリング、生き物調査です。環境調査実習のあとは、いよいよマガンのねぐら入り観察、数万羽を数えます！





今年で７年目の研修となります。



気体サンプリング、チャンバー（自作）



調査用のボート組み立て



ニスキン採水器



ナツアカネ



加藤先生によるトンボ講義

　宮島沼は夕方１７時過ぎ、マガンの「ねぐら入り」が始まりました。編隊を組んで、次々と沼に帰ってきます。昨日、４万羽以上、大群の襲来にかなり動揺してしまいまし。35,000 羽しか数えられませんでした。さあいよいよ明日は、早朝「ねぐら立ち」（飛び立ち）の観察です。





宿泊は、月形温泉



日没を過ぎると次々帰ってきます。



宮島沼観察場所前にて、集合写真

9月26日(木)早朝

マガンねぐら立の観察です。天候は晴れ、風もなく気持ちのいい朝です。

4:20 起床
4:40 バス出発
4:50 宮島沼到着観察開始
5:16 飛び立ち１回目
5:22 日の出
5:53 飛び立ち２回目





観察小屋に到着、
マガンの鳴き声がにぎやかです





（写真上）飛び立ち間近。
（写真下）一斉に大きくなる鳴き声と、マガンが水面を走り出す音と共に飛び立ちが始まりました。

宮島沼フィールド実習2日目

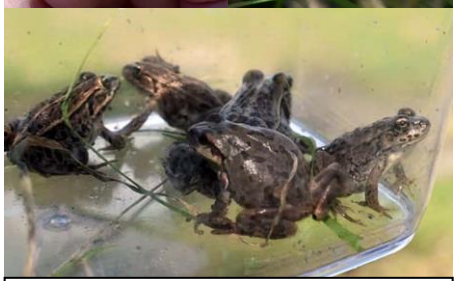
　プログラムは国内外来種のトノサマガエルの捕獲調査です。今年でこの調査も５年目、毎年モニタリングを続けることで見えてくることや、新たな疑問も生まれます。

　今年の捕獲数は少な目でしたが、やはりトノサマガエルは沢山いました。しかし、例年よりもアマガエル多く見つかりました。カエル調査のあとは、マガンの餌場として重要な、田んぼの観察です。稲刈り直後の田んぼには、落ち籾がいっぱいありました。









畔を歩けばトノサマガエルにあたる。
防風林脇の草地には、アマガエルが





センサス調査の要領について、
湿地センターの牛山さんから、
レクチャーを受けています。



稲刈り直後の田んぼには、
落ち籾が多数ありました。





恒例のカエル調査

　国内外来種のトノサマガエルが定着してから、年々数を減らしていたニホンアマガエルですが、今年はなぜか多い結果に。

　隣接して行われている圃場整備事業によって、トノサマガエルが一時的に減ったのかもしれません。調査を継続する重要性を改めて感じました。

今年で8年目を迎える宮島沼実習

自然との共生を学ぶ最高のフィールドです。
滝川高校では貴重な学びの場として、今後もこの実習を充実させていきます。
「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」（通称、湿地条約、ラムサール条約）に登録されている宮島沼では、多様な湿地「ワイズユースの実践」が進められていま。ぜひ、皆さん、お越しください。